

共立女子大学文学部報

共立女子大学文学部報 第135号 発行日 2020年9月25日 編集・発行 共立女子大学 文学部 〒101-8437 東京都千代田区一ツ橋2-2-1 発行責任者 深津謙一郎 創刊 1968年12月 題字 遠藤慎吾 第二代会文学部長

学部報に関するご意見・ご感想を以下のメールアドレスまでお寄せください。 gakubuhu@kyoritsu-wu.ac.jp 学部報は共立女子大学公式HPの「文学部」のコーナーでもお読みになれます。 http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/

第135号 主目次 第1面 トップエッセイ 美の旅 大学随想 第2面 特集 「コロナ時、どうするか?」 卒業生コラム 第3面 各セクションから

〈今号の一言〉 「中村医師は「一隅を照らす」という言葉を繰り返した。道で倒れている人がいたら手を差し伸べるのは普通のことだ。」 (湊典子)

マスク文化は根づくのか?

田口亜紀

マスクでおしゃれ

二〇二〇年六月、大学で入構制限のかかる中、校務のために出勤した。お気に入りの薄紫のシャツに、ポルドー色(濃い紫色)のマスクを付けて。会議後、同僚に「それ、コーデイネート?」と声を掛けられた。私のマスクとシャツが、統一感あるファッションとして受け止められたようだ。実はこの三月に、十年來使っていないミシンでマスクを十枚縫い、家族と友人に配ったあと、数枚手元においていたのだ。別の同僚は、イギリス製花柄の布地で「縫わない」マスクの作り方を伝授してくれた。

今や快適さやセンスを追求するならば、夏に涼しい「かりゆしマスク」、スポーティな機能的マスク、アフリカ布のカラフルマスク、高級ブランドのロゴつきマスクがある。アプリのインスタグラムでは、セレブがファッションリーダーとなって、マスク文化を牽引している。マスク販売を「ビジネスチャンス」と捉え、「リーダーシップ」を發揮して、消費者のニーズを掘り上げて商品化するのでもいいだろう。が、市場でマスクが飽和

状態になったとき、他と差異化しなければ、商売は厳しそう。 マスク文化における コミュニケーション

最近、道端ではお地蔵さんもマスクをしている。ただお地蔵さんは話さないから、マスクを着用していても、私たちの生活に支障はない。対人関係が問題だ。人間はマスク越しに話されると、声聞きとりにくい。何度も聞き返す。耳が悪いと、聞き取れないし、何度も聞き返すとコミュニケーション上、支障がでる。また別の場面だと、告白したい相手の耳元で愛の言葉をささやく、というのは難しくなりそう。マスクで人間のコミュニケーション方法も行動も大きく変化するだろう。

対人コミュニケーションにおいて、言語より非言語が占める割合は大きい。顔の表情では、特に目は口元は重要だ。メッセージの意味を確定するために当てる情報源という意味で、非言語コミュニケーションの占める割合は七割から九割であるといわれる。たとえば、待ち合わせに一時遅刻してきた部下が、「遅刻して申し訳ありません」と言いながらも、

へらへら笑みを浮かべていたら、「口元」が発信する非言語メッセージから、部下が字義通り謝罪してないかと受け取られるだろう。ところがマスクで顔の下半分が隠されたらどうだろう。相手の顔から読み取る情報が減り、コミュニケーションは、より言語に頼らざるをえない。その際、発話(声)の高低、強弱、表情なども重視される。 マスク文化が根づく、対人の物理的かつ心理的な距離も変わるだろう。コロナ以前に、花粉症でも風邪でもないのに、なぜマスクをつけるのかと、学生に聞いたことがある。防疫のためかと思っていたら、「ノーメイクを隠すため」顔に自信が持てないから「この方が安心する」「表情を読み取られないように」「話しかけられなくてすむ」という答えが返ってきた。没交渉で、殻に閉じこもる傾向は助長されるのか。言葉にされなかつた感情表現はどこに向かうのだろうか。リアルではなくバーチャル空間か。

マスク文化の芸術

「菓こもり」期間以降、世界最高峰の歌劇場から動画が配信されることになった。時代を振り返ることにしよう。

絵画作品では、マスクをした人の肖像画が生まれるのだろうか。マスクをした頭像は? そういえば、オペラ座ホワイエ(ロビー)に、眼鏡をかけた音楽家の頭像があった。ネクタイをしている指揮者の立像もあるのだから、マスクをした頭像が彫られていても、おかしくない。

マスクの原義

私の失敗談を披露しよう。マスクが店頭から消えた五月に、薬局で箱に「マスク」の文字が印刷された商品が目につき、すぐに飛びついた。どんな「マスク」かを確認しなかったことを、寝不足のせいにして。自宅で箱を開けると「アイマスク」が入っていた! 私が買ったかった「マスク」では

マスクは必需品だった。 歴史に学ぼう

現在、人が集まる空間ではマスクの着用を求められることが多い。フランス語「マスク」は、



1919年パリの街角 スペイン風邪の大流行から身を守るために、身をもってマスクの着用をすすめる人たち

大学随想

絵に描いた餅、いや、字で書いた餅だって文学部の好物だ。学修、研究の材である。餅は餅屋。なに花より団子だと喰らってしまおうのも文学部の味だろうし、懐

それでは文学部も絵に描いた餅になってしまおう! 引き算の妙味というのだろうか。「そのまんま」ではなく、そこからひとつ、ふたつ差つ引いた面白さがある。三次元のもを二次元に。複線を単線に。動きは止める。形のあるものは形のないものへ。色や音、味、香りや匂いをそれ以外のものへ。例えば「字」で「絢爛」(めいもあやな)「瑇瑁」(さいご)「醍醐味」(だいご)「芳醇」(ほうじゅん)「腥臊」(せいそう)……いやいや難しい。漢字だからではない「難しくても微醺」(びいじゅん)は判る。普段は片仮名の「酷」だつて十分に難解だ。難解だけれどもそれぞれに(多分)「滋味」がある。何が足りないと感じる時に、感興がそそられ、想像力が掻き立てられる。サモトライキーのニーケーに手や顔があつて、彩色が残っていたらどうだろう。兎を追いかけたあの山や遠くで悲しくうたう故郷が、実は地下鉄で二駅先なら、停車場の人混みの中にわざわざ三密の危険を冒して地元の言葉を聞きに行くだろうか。そういえば、英語という英語もあつた。▼出勤して同時双方向型授業をする機会があると、自らのスピーカの音量を最大にする。本鈴が無理でもせめて終鈴だけは中継したい。「久振りにチャイムを聞いた」「大学が恋しい」という学生の声には欠落感が強く滲む。防疫を期し旧套を改めて新俗に就けの大号令はい。新機軸を導入して学修、研究の仕組の一部を省くのも已むを得まい。しかしそこに滋味もなく、想像力を刺激するものもなければ、大学という枠組そのものが絵に描いた餅になる。いまこそ文学部の出番だ。

アキラ作「海と生き物」(筆者撮影)

美の旅

中本恭平

この絵を描いたのは、子どもか大人か。シロウトかプロか。 絵を見ると、なぜ私たちはこのような疑問を、半ば無意識のうちに持つてしまうのか。誰が描いたのかを、真先に気にするの。 その束縛から、なぜ自由になることができないのか。

(教授・英語英米文学)

特集

コロナ時、 どうするか?

誰一人、こういう事態になること、それが今なお続くことを予想できたでしょうか。まあ、災害とはだいたいそういうものですが。

『不要不急』の最たるものとみなされがちな文学や芸術。それらを学ぼうとする我々にとって、コロナ時にこそ、そのかけがえのない価値を再確認する必要があるように思われます。

今号では、授業のなかった4月中に、文芸学部生を励まそうと、共立HPに連載した教員のメッセージの中からいくつかを選んで再録し、特集としました。

この世界を伝えるイメージ

杉村使乃

The apparition of these faces in the crowd: Petals on a wet, black bough.

“In a Station of the Metro” by Ezra Pound

これは、イマジストを代表する詩人、エズラ・パウンド(一八八五—一九七二)が一九一三年発表

の詩(Poetry)に収められた詩。イマジズム(Imagism)が試みたのは、ある事象や観念を的確なイメージをもって伝えることでした。この詩では、一九一二年に詩人が目にしたパリの地下鉄の光景が一二行目でうたわわっています。薄暗いホームに入ってきた混み合った車両に浮かび上がる人々の顔、顔、顔。“apparition”(幻影、幽霊)という言葉が、その儚さ、不活発さ、あるいは疲労感さえ伝えてくれます。

三、四行目は、がらりと変わって屋外へ。あいにくの雨、濡れて黒く光る木の幹に——桜でしょうか——花びらが張り付いています。この喩えによって、一、二行目の倦怠感が、一瞬のみずみずしさ、ちよと寂しい美しさによって払拭されるようです。イマジズムへの漢詩や俳句の影響はよく指摘されますが、納得される方も多いいのではないのでしょうか。

二〇二〇年二月終わりの半蔵門線、いつもよりも圧倒的に増えたマスク着用の乗客たちに、この詩とあるエピソードが鮮やかに甦りました。十年ほど前に参加したモダニズム文学のワークショップにて、イギリス人講師が語ってくれた、自身が目にした東京の地下鉄での光景です。自国では考えられないくらい大勢の人々がマスクを着けていて、その車両の中に散らばる白い点々を見て、この詩がリアルに浮かび上がったとのこと。

桜を見ることもままならなかったこの春、この短い詩が、自分を取り巻く世界をめぐる様々なネガティブな、またポジティブな心情や側面を私に伝えてくれました。

文学や芸術は時空を超えて、この世界を読む言葉やイメージを伝えてくれます。皆さんは、いま、自分が目にしている世界をどんな言葉やイメージに置き換えているのでしょうか。

オンライン授業で離れていても、一緒に読むという時間を楽しんでいきましょう。

(教授・英語英米文学)

シェイクスピアの窓

村井華代

卒業式が中止になった3月、このウィルスは17世紀なら蔓延しても誰も気がつかなかったのに、と考えていました。ナノ顕微鏡がないから姿は見えない、1日で海を渡る乗り物もないから爆発的拡大はしない、地球上の全ての営為をカバーするWEBシステムもないから、今日この都市の死者が何人だったか、地球上のあらゆる国が知ることもない。ペストのように突如、体の表面に「しるし」が現れることもなく、異常な高熱も出ず、症状は肺炎なので、「今年の風邪はこじらせると危ない」くらいに思われて、しばらく猛威をふるった後、誰にも名付けられないことなく静かに消えたんじゃないかと。

一人ひとりがタイタンのような能力を携えた存在になり、地球全体を一つの緊密な輪の中に収めるようになりました。それなのに弱毒性のウィルスに毎日怯え、生活を破壊され、一番大事な人も1.8m離れていなければならぬとは、皮肉にもひどすぎますが、「グローバル社会がもたらした災禍」「いやグローバル社会だからこそ可能な連帯を」……いろいろな言い方がありますが、私が思い出すのは、映画「サウンド・オブ・ミュージック」の有名な台詞です。「神様は、扉を閉めるとき、窓を開けてくださる」。

全く別の話です。最近、WEB上でウィリアム・シェイクスピアと疫病との関係についての記事を多く見かけます。彼は16世紀末から17世紀初頭にかけて、年齢で言うと20代半ばから40代末まで、25年間くらいをロンドンの演劇人として過ごしました。その25年の間に、劇場が閉鎖に追いこまれるほどの疫病の大流行があったこの春、この短い詩が、自分を取り巻く世界をめぐる様々なネガティブな、またポジティブな心情や側面を私に伝えてくれました。

文学や芸術は時空を超えて、この世界を読む言葉やイメージを伝えてくれます。皆さんは、いま、自分が目にしている世界をどんな言葉やイメージに置き換えているのでしょうか。

オンライン授業で離れていても、一緒に読むという時間を楽しんでいきましょう。

(教授・英語英米文学)

WEBでよく取り上げられているのは、アメリカのシンガー・ソングライター、ロザンヌ・キャットシユの3月13日のツイート。シェイクスピアは疫病のせいで隔離されていたときに「リア王」を書いたというのを思い出してみる。恐らく、ジェイムズ・シャピロの二〇一五年のベストセラー(邦訳:『リア王』の時代:一六〇六年のシェイクスピア)河合祥一郎訳、白水社、二〇一八年)の説——前年の火薬陰謀事件から続く疫病流行というまさに国難の一六〇六年に、シェイクスピアが「リア王」「マクベス」「アントニーとクレオパトラ」を書いた——からの発想だろうと思えますが、この人口の一角が犠牲となりまし

りませた言説が続いているのでここでは放っておきます。一方で、一五九二年の流行の際、シェイクスピアは劇場の仕事ができなくなったので詩を書き始めたというのは、確かにありそうなことです(M・C・ブラッドブック『歴史の中のシェイクスピア』岩崎宗治・稲生幹雄訳、研究社出版、一九九二年)。「成り上がり者のカラス」と言われるほどの人気劇作家になっていたタイミングで劇場閉鎖に、彼は運命を恨んだのでしょうか。「窓」は見つけられたいのでしょうか。「ヴァイナスとアントニス」は一五九三年に、「ルークリースの凌辱」は一五九四年に出版されました。一六〇三年の流行ではロンド

の顔、顔、顔。“apparition”(幻影、幽霊)という言葉が、その儚さ、不活発さ、あるいは疲労感さえ伝えてくれます。

三、四行目は、がらりと変わって屋外へ。あいにくの雨、濡れて黒く光る木の幹に——桜でしょうか——花びらが張り付いています。この喩えによって、一、二行目の倦怠感が、一瞬のみずみずしさ、ちよと寂しい美しさによって払拭されるようです。イマジズムへの漢詩や俳句の影響はよく指摘されますが、納得される方も多いいのではないのでしょうか。

一人ひとりがタイタンのような能力を携えた存在になり、地球全体を一つの緊密な輪の中に収めるようになりました。それなのに弱毒性のウィルスに毎日怯え、生活を破壊され、一番大事な人も1.8m離れていなければならぬとは、皮肉にもひどすぎますが、「グローバル社会がもたらした災禍」「いやグローバル社会だからこそ可能な連帯を」……いろいろな言い方がありますが、私が思い出すのは、映画「サウンド・オブ・ミュージック」の有名な台詞です。「神様は、扉を閉めるとき、窓を開けてくださる」。

全く別の話です。最近、WEB上でウィリアム・シェイクスピアと疫病との関係についての記事を多く見かけます。彼は16世紀末から17世紀初頭にかけて、年齢で言うと20代半ばから40代末まで、25年間くらいをロンドンの演劇人として過ごしました。その25年の間に、劇場が閉鎖に追いこまれるほどの疫病の大流行があったこの春、この短い詩が、自分を取り巻く世界をめぐる様々なネガティブな、またポジティブな心情や側面を私に伝えてくれました。

文学や芸術は時空を超えて、この世界を読む言葉やイメージを伝えてくれます。皆さんは、いま、自分が目にしている世界をどんな言葉やイメージに置き換えているのでしょうか。

オンライン授業で離れていても、一緒に読むという時間を楽しんでいきましょう。

(教授・英語英米文学)

WEBでよく取り上げられているのは、アメリカのシンガー・ソングライター、ロザンヌ・キャットシユの3月13日のツイート。シェイクスピアは疫病のせいで隔離されていたときに「リア王」を書いたというのを思い出してみる。恐らく、ジェイムズ・シャピロの二〇一五年のベストセラー(邦訳:『リア王』の時代:一六〇六年のシェイクスピア)河合祥一郎訳、白水社、二〇一八年)の説——前年の火薬陰謀事件から続く疫病流行というまさに国難の一六〇六年に、シェイクスピアが「リア王」「マクベス」「アントニーとクレオパトラ」を書いた——からの発想だろうと思えますが、この人口の一角が犠牲となりまし

りませた言説が続いているのでここでは放っておきます。一方で、一五九二年の流行の際、シェイクスピアは劇場の仕事ができなくなったので詩を書き始めたというのは、確かにありそうなことです(M・C・ブラッドブック『歴史の中のシェイクスピア』岩崎宗治・稲生幹雄訳、研究社出版、一九九二年)。「成り上がり者のカラス」と言われるほどの人気劇作家になっていたタイミングで劇場閉鎖に、彼は運命を恨んだのでしょうか。「窓」は見つけられたいのでしょうか。「ヴァイナスとアントニス」は一五九三年に、「ルークリースの凌辱」は一五九四年に出版されました。一六〇三年の流行ではロンド

一隅を照らす

湊典子



ダラエヌール渓谷、井戸掘り現場の中村哲医師 2003年12月(PMS提供)

救おうと、大規模な食糧配給に奔走する医師の姿を紙面に見出した。中村医師は「一隅を照らす」という言葉を繰り返した。道で倒れている人がいたら手を差し伸べるのは普通のことだ。自分は「見た者の責任」でアフガニスタンにかかわっているけれど、一隅は身近などこでもいいのだと。

二〇一三年、中村医師に心を動かされた郷里の友人たちと小さな支援グループを立ち上げた。以来、医師とその支援母体であるペシヤワール会の活動を紹介する写真展や講演会を開催している。

私たちは困窮する人びとの傍らに不屈の意志で立ち続け、その姿で私たちにまた大きな希望と励ましを与えた人を同時代に見てきた。自ら発光体となって強く暖かい光を投げかけた人を。

「照一隅」を記憶に刻み、中村哲医師の意志に沿いたい。(昭和43年造形芸術コース卒)

(教授・劇芸術)

孤独を飼いならす機会

山森宙史

精神の豊かな人は、まったくの孤独の中でも、おのれひとりの想念や幻想にすばらしい楽しみを見出すことができるが、愚か者の場合は、社交、観劇、遊山、宴会などが入れ替わり立ち替わり絶えることなく続いて、死ぬほどの退屈から彼を防ぐ手立てはないのである。(アルトゥール・ショーペンハウアー)

一息つく時間

岡田ひろみ

冒頭で取り上げた哲学者の言葉にも見られるように、私たちは普段「忙しいすぎる」「ひとりでゆとりが足りない」「ひとりでゆとりが足りない」と愚痴をこぼすことがありますが、実は、なにがなしに「退屈」や「孤独」から逃げようとしてしまっているように見えます。みなさん、先生がいたら嬉しい？ まあ、みなさんイケメンでありますよね。では、次の三人の共通点はわかりますか。

さて、これはなんのアンケートの順位でしょう。
1位 新田真剣佑 2位 吉沢亮 3位 菅田将暉・千葉雄大
彼氏にしたいランキンク？
みなさん先生がいたら嬉しい？
では、次の三人の共通点はわかりますか。
「愛華みれ・生田斗真・高橋大輔」。

感動し和歌を詠み、カフェの抹茶ラテを一口飲んでまた和歌を詠みあげます。所構わず和歌を詠みあげるところも、スイーツが好きすぎて太ってしまうところも、ゆったりとした変な歩き方も、すぐ泣くところも、なぜかみんな「かわいくて許せる」任侠にすることで、誰からも愛される光源氏を作り出しているといえるでしょうか。藤原沙織(伊藤沙莉)との掛け合いも絶妙です。

「マスクの値段のときは数日前20〜30銭であったものが昨日あたりは50〜60銭に暴騰し、銀座某店などには1円70〜80銭のものさえ現れるにいたった。これは皆奸商(悪徳業者)の仕業で、もし当局が相当の処置に出なければ、一層の騰貴(値段が高くなること)を見るかも知れない。」

これは、百年前の『東京日日新聞』(一九二〇年一月一日)の「面」の記事です(※1、読みやすいうように一部現代表記に改め、注釈を補っています)。

野金吾のエピソードを挙げてみましたが、たとえば「芸術と感染症」という一見関係のないもの同士でもそれをテーマとして掘り下げて探求することによって興味深いことがわかっていきます。これが文芸学部での学びでもあり、そこに無限の可能性を秘めているといえます。そして、その学びは、現代を生きる私たちの問題解決の助けにもなり、さらに未来を生き抜いていくための力をたくさん与えてくれると信じています。

芸術と感染症

近藤 壮



辰野金吾(1914年竣工・筆者撮影)。辰野金吾の設計した東京駅(1914年竣工)の内部の様子を捉えた写真。

辰野金吾の設計した東京駅(1914年竣工)の内部の様子を捉えた写真。辰野金吾の設計した東京駅(1914年竣工)の内部の様子を捉えた写真。

「退屈」や「孤独」を感じている方も中にはいるのではないのでしょうか？ いつもなら、観たいコンテンツの消化に時間がまったく足りなかったり、SNSのやり取りで忙しかつたりするはずが、いざ時間の余裕ができてしまうと、途端になぜだかどうでもよくなってしまふ。あるいは、本来なら今頃隣にはいつでもつなが

「光源氏」役を務めました。そして、先ほどのアンケート順位、実は、某学校で知人が行った「光源氏」役を務めました。そして、先ほどのアンケート順位、実は、某学校で知人が行った

「何だかふざけているように感じますが、試験問題の1問一答主義から脱却し、複眼的な思考を持ちましょう」というメッセージ(のつもり)です。

「愚者は経験から学び、賢者は歴史に学ぶ」という言葉があります(ピスマルクの名言が変化した造句です)。

辰野金吾は「建築家になったからには、日本銀行と東京駅と国會議事堂の三つを建てたい」と語っていたそうです。そのために人一倍努力し、日本銀行と東京駅を設計し、三つの夢のうち二つは見事に叶えることができました。

※1 明治・大正期の新聞記事は、Kyotisu IDの「電子資料リスト」の新聞記事データベースから読むことができます。興味ある方は、データベースにアクセスして実際の紙面を読んでみてください。

アマビエからのメッセージ

堀 新

コロナのおかげで、アマビエが注目されています。幕末の弘化三(一八四六)年に肥後国(熊本県)の海に現れた怪物という妖怪というか、不思議な生き物です。

「アマビエは何と言っているのでしょうか？」
①私は海中に住むアマビエとごう者です。

「何だかふざけているように感じますが、試験問題の1問一答主義から脱却し、複眼的な思考を持ちましょう」というメッセージ(のつもり)です。

「愚者は経験から学び、賢者は歴史に学ぶ」という言葉があります(ピスマルクの名言が変化した造句です)。

辰野金吾は「建築家になったからには、日本銀行と東京駅と国會議事堂の三つを建てたい」と語っていたそうです。そのために人一倍努力し、日本銀行と東京駅を設計し、三つの夢のうち二つは見事に叶えることができました。

※2 『流行性感冒「スペイン風邪」大流行の記録(内務省衛生局編)』(東洋文庫七七八、平凡社、二〇〇八年九月)



肥後国(熊本県)の海に現れた怪物という妖怪というか、不思議な生き物です。

「何だかふざけているように感じますが、試験問題の1問一答主義から脱却し、複眼的な思考を持ちましょう」というメッセージ(のつもり)です。

「愚者は経験から学び、賢者は歴史に学ぶ」という言葉があります(ピスマルクの名言が変化した造句です)。

辰野金吾は「建築家になったからには、日本銀行と東京駅と国會議事堂の三つを建てたい」と語っていたそうです。そのために人一倍努力し、日本銀行と東京駅を設計し、三つの夢のうち二つは見事に叶えることができました。

※1 明治・大正期の新聞記事は、Kyotisu IDの「電子資料リスト」の新聞記事データベースから読むことができます。興味ある方は、データベースにアクセスして実際の紙面を読んでみてください。

これを伝えるかわら版が残されていて、京都大学貴重資料デジタルアーカイブ(https://mda.kulib.kyoto-u.ac.jp/)で見ることが出来ます(利用自由)。下の画像は、そのサイトからダウンロードしたものです。

「アマビエは何と言っているのでしょうか？」
①私は海中に住むアマビエとごう者です。

「何だかふざけているように感じますが、試験問題の1問一答主義から脱却し、複眼的な思考を持ちましょう」というメッセージ(のつもり)です。

「愚者は経験から学び、賢者は歴史に学ぶ」という言葉があります(ピスマルクの名言が変化した造句です)。

辰野金吾は「建築家になったからには、日本銀行と東京駅と国會議事堂の三つを建てたい」と語っていたそうです。そのために人一倍努力し、日本銀行と東京駅を設計し、三つの夢のうち二つは見事に叶えることができました。

※1 明治・大正期の新聞記事は、Kyotisu IDの「電子資料リスト」の新聞記事データベースから読むことができます。興味ある方は、データベースにアクセスして実際の紙面を読んでみてください。

研究室から

日本語日本文学

今年度が始まってから慌ただしくも折返ししの時期を迎えました。前期中は遠隔授業となり、日本文学・語学の皆さんも、自宅で籠もりの状態が続いていたのではないのでしょうか。

以前、とある仏教書を読んでいたところ、輪廻転生の概念を蚕の羽化に例えて説明した文章がありました(『木村泰賢全集』第三巻、大法輪閣、一九六八年)。

それによれば、幼虫から蛹を経て蛾へと変態した蚕は、外見的に言えば全く違ったもののように見えるが、あくまで同一虫の変化であり、幼虫と蛾とを以って同とも異とも言えず、変化であると言いつつのみと同般である、とのこと。

何かと停滞しがちな今の状況下では、なかなか自分自身の変化というものに気がつきにくいかもしれない。

授業開始が延期された四月下旬、大学HPに学生の皆さん宛てたメッセージを寄稿しました。今はもうHP上で閲覧できないので、あらためてその一部を寄稿しなおします。

しれませんが、文芸学部生として修旅行の中止はとて残念でなりません。英語コースではまだ他にも様々な企画を用意しています。詳細はキョネット随時配信します。どうぞお見逃しなく! (助手・川崎)

英語英米文学

英文コースでは本年度新企画として、ブリッティッシュルズ研旅行を予定していました。

ブリッティッシュルズとは、福島県岩瀬郡にある神田グループ(神田外国語大学・神田外国語学院)が運営する英語教育を推進するための語学研修施設です。

こちらの施設では、英語に関する様々なアクティビティを体験することが出来ます。今回の研修では、外国人講師によるスコーン作りやエッセンシャルオイルの香りや効能を学ぶアロマセラピーなど、本場さながらのレッスンを学生の皆さんに体験してもらう予定でしたが、コロナの影響もあり、やむを得ず中止となりました。

企画した側としても今回の修旅行の中止はとて残念でなりません。英語コースではまだ他にも様々な企画を用意しています。詳細はキョネット随時配信します。どうぞお見逃しなく! (助手・御子貝)

フランス語フランス文学

この欄をはじめ担当します。岡見さんと申します。3月に滝沢明子先生がご退職になり、4月に着任しました。文学と視覚芸術の関係、ダンスを研究の対象としていきます。

新学期はCOVID-19感染拡大に伴う波乱の船出でしたが、社会の変化に伴い研究室では新たな試みを行いました。留学生との交流が失われ会話力低下を危惧する学生の声に応え、検定や留学等を目標とする学生に外部のオンライン個人講座受講支援、基礎固めの学生に専修オンライングループ会議講座を実施しました。学外では、本学ロビーで昨年実施した「ヌーヴェル

ルヴァーグの女優たち展」を再構成し、千代田区立図書館にて館蔵の映画関連書籍とともに展示しました。

「Fluctuat nec mergitur」(たゆたえど沈まず)は、パリがセーヌ河川交通で栄えたルテティアと呼ばれた時代から、現在まで掲げる標語です。時代の波に柔軟に対応し、当研究室も進んでいきたいと思えます。(准教授・岡見)

劇芸術

3月25日、新任のご挨拶で劇芸術研究室へうかがう。マッタホーンのクッキーとコフィアのコーヒーを紙袋に入れて。新学期がどうなるか助手さんや先生方と話す。4月1日、新学期のはじまりは5月へ延期、学生さんが不安ではないかと気にかかる。メールとラインで、授業にZoomを使うかZoomを使うかといった議論をかさね、4月14日、芸術領域の会議をはじめZoomでおこなう。4月27日、劇芸術コース初のZoom会議。以後、会議を隔週でおこなう。

この四月に准教授として着任した近藤壮と申します。生まれ育った関東に関西から十六年ぶりに戻ってまいりました。新入生と同じような気持ちで期待に胸を弾ませて登校。できておりませんがリモートワークの毎日です。

造形芸術

この四月に准教授として着任した近藤壮と申します。生まれ育った関東に関西から十六年ぶりに戻ってまいりました。新入生と同じような気持ちで期待に胸を弾ませて登校。できておりませんがリモートワークの毎日です。

造形芸術の一部の授業は対面となりましたが、皆さんも思い描いたキャンパスライフを送れず

に、息苦しい日々を送っているのではないのでしょうか。「人間の生活は矛盾だらけだ。それに耐え、そのマイナスマネをプラスの面に転化してゆくこと。それが創ることなんだ。」これは、芸術家・岡本太郎の言葉です。「創ること」—そう、それは文芸学部での学びであり、造形芸術の目的でもあります。創ることは大変だけれど楽しい—そのような心持ちで、このコロナ禍という困難を一緒に乗り越えていきましょう。

そして、一日も早くこの事態が終息し、皆さんと共立の学び舎でお会いできる日を楽しみにしています。その日まで安全と健康に配慮して過ごしましょう。(准教授・近藤)

文芸教養

二〇〇〇年四月に赴任した私は、当時の担当が情報処理だったため、特定の研究室に属していませんでした。卒業式のコース記念写真撮影を三号館ホールで遠巻きに見ていた翌年度、新設された文芸メディア研究室に所属することとなりました。

爾来二十年……この度学問的バックグラウンドの一つである哲学・思想を担当させていただくことになり、文芸教養(文化領域)研究室に移籍することになりました。

赴任時、本研究室には芥川賞作家の柴田翔教授が在籍しており、その受賞作「されどわれらが日々」の解説者が学生時代に懇意にさせていただいた野崎守英教授だったので、他研究室のことはいえ、一人盛り上がりつつあったのが思い出されます。

その柴田教授の口癖が「教養とは知の相対化である」ということでした。つまりそれは自己の相対化ということでもあります。そんな研究室理念を支える一員に早くなりました。

私の専門としているメディア史という研究の醍醐味は、こうしたメディア文化のB面にもスポットを当てることができるところだと思っています。(専任講師・山森)

学部長から

授業開始が延期された四月下旬、大学HPに学生の皆さん宛てたメッセージを寄稿しました。今はもうHP上で閲覧できないので、あらためてその一部を寄稿しなおします。

いささか牽強附会かもしれないが、こうした営みは、文芸や芸術について学ぼうというところどこかで通底しているような気がしてなりません。(略)

たく新しい別の何かに乗り換えることではないはず。そうではよらない新しい世界が広がっている。文学や芸術に触れる機会を増やして、柔軟な発想によって導かれる、このこと、これまでどうあつたかの本質を見らう。

極めて、そのうえでそれを今の(そ)http://www.kyotiusu.ac.jp/academics/undergraduate/bungei/message/ (教授・深津)

祝・受賞者一覧

- 文芸学部 さくら賞**
 - 大高 蒼生造形
 - 神長 夏海造形
 - 羽野なつ美英文 佳作
 - 綾野 紗樹公文 佳作
- 日本語日本文学 卑弥呼賞**
 - 苅部 菜々
- 英語英米文学 ひばり賞**
 - 小平真由香・金春 実果
 - 橋本 千夏・村井 晴香
 - 林 幹恵・小関 依里
- フランス語フランス文学 マリアンヌ賞**
 - 田野倉美里・松浦 知奈
 - 山口絵梨乃
 - 鮫島 梓紗
- 造形芸術 プリマヴェーラ賞**
 - 奈良ひかり
- 文芸教養 文教賞**
 - 小野 梨子・岸本 夏凜
 - 崎本 梨華・佐藤 綾香
 - 田窪 小暖・西森 彩織
 - 二瓶 佳実・仁保 輝
 - 三好英美里

お知らせ

前号一三四号は三月末には発行されていましたが、四月以降、大学立ち入り禁止になったため、まだほとんど配布できていない状態にあります。ただ、データ自体は共立HPに上がっているのので、読むことは出来ます。

後期には対面授業も始まる予定なので、今号は前号と一緒に学生の皆さんに直接配ることが出来るだろうと思います。紙媒体で読むと、また違った味わいがあるものです。

編集後記

いよいよインターネットの、つまりは電子媒体の世の中になりつつある。お互いに初めてだったオンライン授業も、何となく慣れてきてしまった感がある。もはやコロナによる非常時だからという事態ではなさそうである。

出版業界ではかなり前から、紙媒体から電子媒体への移行が進んでいる。学問の世界でも、インターネット発表が当たり前になってきて、紀要も冊子にされることなくなくなりました。